

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2012～2016

課題番号：24222001

研究課題名(和文)日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充 - 天皇家・公家文庫を中心に -

研究課題名(英文) establishing the foundation of japanese library catalogue studies and expanding the research tools for classical studies -with a focus on royal and noble library holdings

研究代表者

田島 公 (TAJIMA, Isao)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：80292796

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 147,300,000円

研究成果の概要(和文)：東京大学史料編纂所閲覧室で東山御文庫本、陽明文庫本、書陵部蔵九条家本・伏見宮家本など禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像約100万件を公開した。高松宮家伝来禁裏本・書陵部所蔵御所本の伝来過程を解明し、分蔵された柳原家本の復原研究を行い、禁裏・公家文庫収蔵未紹介史料や善本を『禁裏・公家文庫研究』や科学研究費報告書等に約30点翻刻・紹介した。更に、日本目録学の総体を展望する「文庫論」を『岩波講座日本歴史』22に発表し、『近衛家名宝からたどる宮廷文化』を刊行した。

研究成果の概要(英文)：We digitally photographed one million documents held by royal and noble archives manuscript collections such as the Higashiyama Obunko, Yomei Bunko, and the Imperial Household Agency Library's Kujou House and Fushimi no Miya House lineages and made them available for viewing at the University of Tokyo Historiographical Institute Library. By elucidating the transmission processes of the Royal Collection derived from the Takamatsu no Miya House lineage and the Imperial Household Agency Goshou Collection, we carried out reconstructive research on the divided Yanagihara House lineage manuscript collection. We introduced and provided transcriptions of roughly 30 hitherto unknown documents and fair copies held by royal and noble archives by way of Research on Royal and Noble Archives, vol. 5-6 and JSPS Research Bulletins. We published "On Archives", a survey of the field of Japanese Library Catalog Studies and also "Court Culture via the Konoe House Treasures," a record of public lectures.

研究分野：日本古代史

キーワード：京都御所東山御文庫 禁裏文庫 陽明文庫 近衛家本 宮内庁書陵部 日本目録学 『禁裏・公家文庫研究』 新訂増補『日本古代人名辞典』

1. 研究開始当初の背景

前近代日本における古代・中世以来の伝統的な知識(知識体系)は、主に天皇家を中心とした公家社会に育まれた禁裏文庫・公家文庫を中心に手書きの写本という形態で有機的に分類(「類聚」)されて収蔵され、世代を超えて公家社会を中心としたネットワーク内で保管・維持され、有機的なデータベースとしての機能を果たしてきたが、近代以降、日本の多くの図書館や文庫で用いられた「日本十進分類」(N・D・C)によって、その家で所蔵されていた所蔵形態(知識体系)が壊れてしまった。このような状況に対して、前近代の蔵書目録を利用して、文庫の旧蔵形態を共時的に復原すると共に、蔵書群の変遷や上記の公家社会が伝え育んできた伝統的知識体系の構造・具体相を通時的に解明することを提唱した。そこで、天皇家ゆかりの二大蔵書群である京都御所東山御文庫本・宮内庁書陵部所蔵伏見宮家本、主要公家の文庫である同九条家本、陽明文庫所蔵近衛家本、書陵部と岩瀬文庫に分蔵される柳原家本などを「家分け」の蔵書群ごとにデジタル化し、メタデータ(内容情報)を付して、研究者や一般市民が簡単に利用出来るような研究環境の構築と、新しい学問領域としての「日本目録学」の創成、更にそれによる古典学の再生を試みた2007～11(平成19～23)年度学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生 - 天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明 - 」の継承を目指した。

2. 研究の目的

集積した禁裏・公家文庫のデジタル画像約100万冊の公開、及びデジタル画像を確認しながら作成した東山御文庫本・伏見宮家本の「内容目録」の公開、陽明文庫所蔵近衛家本や宮内庁書陵部等所蔵の主要公家文庫本のデジタル画像集積の継続、『日本古代人名辞典』新訂増補版の刊行など古典学研究支援ツールの充実、禁裏・公家文庫の文庫史・蔵書目録・収蔵史料の目録学研究の進展、学界への情報提供や、古典学の市民向け公開講座の実施等を通じて、古典学再生の研究基盤・研究環境を整える。

3. 研究の方法

2007～11(平成19～23)年度学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生 - 天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明 - 」の成果を継承し、以下の4点の研究活動を通じ、古典学再生の為、日本目録学の研究基盤を確立し研究支援ツールを拡充する。

- (1) 東山御文庫本・伏見宮家本・九条家本・近衛家本など集積した禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像を所蔵機関の許可を得て東京大学史料編纂所閲覧室にて公開する。
- (2) 新訂増補版『日本古代人名辞典』等、古典学研究ツールを作成・公開する。
- (3) 『禁裏・公家文庫研究』5・6輯などの

刊行により、禁裏・公家文庫の文庫史、収蔵史料の目録学的研究の成果を公開する。

(4) 「陽明文庫講座」他、禁裏・公家文庫収蔵古典籍・古文書や古代・中世史を中心とした市民向け公開講座を実施し、古典研究の裾野を広げる活動を行う。

4. 研究成果

(1) 学術創成研究費等で蒐集した禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像(JPEG・TIFF・RAWデータ)2,828,542fileの入った全てのHDDを整理・確認し、データ消失がないように最新HDDにデータ移行した。

(2) 宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵白川家日記(41,826冊)・柳原家本(1,447冊)・九条家本及び伏見宮家本(16,790冊)、京都御所東山御文庫本(26,373冊)、西尾市岩瀬文庫所蔵柳原家本(593冊)の画像の電子化を行った。

更に宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵壬生家本(10,563冊)・九条家本(10,332冊)、京都御所東山御文庫別置御物第20番の内、九条家旧蔵『弘仁格抄』2巻・『西宮記』2巻・『毛詩』2巻・『法華経音』1巻・『古文尚書』4巻・『文選』25巻の原本調査を行い、『古文尚書』等の高精細デジタル画像(1,892冊)の蒐集を行った。

また、陽明文庫所蔵「革文庫目録～」・「貴重日記函目録」を作成し、「革文庫～所蔵資料」(2,578冊)、『魚魯愚鈔』『魚魯愚別録』(1,458冊)・『和漢抄』(72冊)・「一般文書目録所載資料」(898冊)・『大手鑑』(184冊)・『年中行事絵巻』(311冊)『一般文書目録史料歴代天皇宸翰』(565冊)・『一般文書目録史料近世名家書状』(230冊)・『一般文書目録史料近衛家歴代分』(21冊)・「軸物、無銘古筆手鑑等」(144冊)・『御茶湯之記』『槐記』『革文庫・未撮影史料』『佳品目録軸物史料』等(1,673冊)の高精細デジタル画像を蒐集した。

更に公益財団法人古代学協会・京都文化博物館所蔵「奈良平安貴重史料」・『魚魯愚鈔』・「持明院文書ほか貴重史料」(990冊)等の高精細デジタル画像を作成した。

以上、5年間で合計119,121冊のデジタル画像を追加蒐集した。

(3) 学術創成研究費及び本科学研究費で蒐集した禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像を、史料所蔵機関の公開許可を得て、閲覧可能な環境に整え、東京大学史料編纂所閲覧室の端末データベースHi-CAT Plus(「東京大学史料編纂所所蔵史料目録データベース」改良版)から合計966,716画像を公開した。

具体的には、先ず、禁裏・公家文庫の中核を担う、宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵伏見宮家本・九条家本のデジタル画像の大部分を公開し、書陵部と西尾市岩瀬文庫に分蔵されている柳原家本のデジタル画像も殆ど全て閲覧できることになった。

また、宮内庁正倉院事務所所蔵「東南院文書」3千冊(含む透過光写真)、更に近衛家文

来資料を収蔵する陽明文庫の「近衛家記録十五函文書」及びそれに準ずる貴重史料(革文庫・佳品目録・典籍目録・一般文書目録他)の高精細デジタル画像約4万8千コマを史料編纂所の閲覧室で公開した。「東南院文書」と陽明文庫本のデジタル画像の公開は学界初公開で、古典学研究に大きく裨益すると思われる(東南院文書は「日本古文書ユニオンカタログ」からの閲覧となる)。なお、陽明文庫所蔵資料の高精細デジタル画像は、新たに京都府立京都学・歴史館でも一般に公開すべく、2017年2月5日、公益財団法人陽明文庫と京都府立京都学・歴史館と東京大学史料編纂所の三者の間で「公益財団法人陽明文庫所蔵資料のデジタル画像の収集及び館内公開に関する覚書」が締結され、2017年度より歴史館の閲覧室でも順次公開されることとなった。

加えて、最大の成果として、宮内庁侍従職管理の京都御所東山御文庫本150函(勅封1~25・27~29・31~38[35甲乙も含む]・41・43~56[50甲乙も含む]・59・60・62~64・66~74・87・91~96・101~107・109・110・112~116・118~151・153~159・161~168・170・172~175・177~185・188の各函。但し未撮影分を除く)及び同別置本の公開用メタデータ付きの画像(1画像毎の内容目録付きの画像データも含む)5,052件262,883画像を作成し、宮内庁侍従長の許可を得て、2016年10月3日より史料編纂所閲覧室情報端末PCより公開を始めた。東山御文庫本のデジタル画像の公開は初めてで、学界待望のことであり、これもまた古典学研究の進展に大きく貢献すると思われる。

(4) 禁裏・公家文庫の形成過程については、学術創成研究の成果を引き継ぎ、小倉慈司「高松宮家伝来禁裏本」の形成過程(『国立歴史民俗博物館研究報告』178、2013年)により、後西天皇の収集書について、それが霊元天皇を経て、中御門天皇や有栖川宮職仁親王に引き継がれる過程を明らかにし、高松宮家伝来禁裏本の形成過程をほぼ解明した。また、同「宮内庁書陵部所蔵京都御所旧蔵本の由来 吹上御文庫本の検討 附 宮内庁書陵部所蔵『吹上御文庫書籍目録写』翻刻」(『国立歴史民俗博物館研究報告』186号2014年)により、明治初年に京都御所より回送され、最終的には宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵旧禁裏御文庫本(御所本)となった本の伝来を明らかにし、同「東山御文庫本『字書目録』勅封164-74」(『国立歴史民俗博物館研究報告』195号2015年)により禁裏文庫収蔵漢籍の実態も明らかとなった。

更に、近代になって分蔵された公家文庫の復原研究のケーススタディーとして、吉岡眞之「柳原家旧蔵書籍群の現状とその目録 蔵書群の原形復原のための予備的考察」(田島公編『禁裏・公家文庫研究』5 思文閣出版2015年)により、宮内庁書陵部と西尾市岩瀬文庫とに分蔵されている柳原家旧

蔵本の全体像復原への道筋がつけられた。

(5) 4回17年間の大型科学研究費による禁裏・公家文庫研究の到達点を示すため、田島公「文庫論」『岩波講座 日本歴史』22(岩波書店2016年)を発表し、前近代の古典籍伝来と知識体系(「知」の体系)の歴史的特質及び文庫の役割を、自筆本『御堂関白記』の伝来を素材に近衛家文庫の、自筆本『水左記』の伝来を素材に伏見宮家文庫の、六国史の伝来を素材に近世禁裏文庫の、それぞれの成立と変遷を示し、初めて日本史の一研究領域として文庫論・目録学のジャンルを構築出来た。

また、宮内庁書陵部・京都大学総合博物館・東北大学狩野文庫等に分蔵されている壬生家本を概観するため、書陵部所蔵分を小倉慈司編「宮内庁書陵部所蔵壬生家旧蔵本目録(稿)」(前掲『禁裏・公家文庫研究』5)として公開し、京都大学所蔵分に関しては、京都大学所蔵壬生家文書全894点の目録化をほぼ完了した。更に、宮内庁書陵部所蔵を中心とした御所本に関しては、同編「宮内庁書陵部所蔵御所本(旧禁裏本)目録(稿)」(前掲『禁裏・公家文庫研究』6)を公開した。

(6) 禁裏・公家文庫収蔵の個別史料に関しては、学界で十分に紹介されていない藤原行成筆「陣定文案」(個人蔵)、後三条天皇撰『(後三条院)年中行事』、陽明文庫本『長谷寺縁起文』・「藤原師実執筆除目関係史料」、東京大学史料編纂所所蔵広橋家本『見忌抄』、徳大寺本『公維公記』・『和歌御会詠草』紙背文書、九条家本『定能卿記部類』・「諸次第等目録」、伏見宮家本『惟房公記』・「大間書」紙背文書、京都御所東山御文庫本「足利義昭入洛記」・「近江野洲郡寺領文書写」・『桃園天皇御詠草』・『伏見天皇御歌集』雑部・紙背文書、「東大寺文書」・「正親町天皇覚書類」・『伊勢物語』・『院中御湯殿上日記』、菊亭家本『禁裏楽器并譜諸目録』、西尾市岩瀬文庫所蔵柳原家本『執政所抄』・『延喜式』諸写本、(以上、『禁裏・公家文庫研究』5・6輯、科研中間報告書・科研最終報告書収載)など多数の翻刻・解題・伝来や史料紹介等がなされた。

この他、後三条天皇撰『院御書』の除目部分と思しき史料であると田島が発見した明治大学図書館所蔵三条西家本『除秘鈔』、10世紀前半のものと思われる東山御文庫所蔵『外記政』、陽明文庫所蔵近衛家本『勘例』などの翻刻・研究をほぼ完了し、重要史料の公開の準備を整えた。更に『京都御所東山御文庫所蔵 鴨社文書』刊行のための原稿作成も進めた。

(7) 一般市民向けに、「陽明文庫講座」(2012~16年度)13回、「西尾市岩瀬文庫特別連続講座「史料から歴史の謎を読み解く2012~16」14回、金鷄会館公開講座「新・古典を読む - 歴史と文学 - 」「続・古典を読む 歴史と文学」(2012~16年度)58回、「関市立図書館講演会」(2013~16年度)8回を開催

し、計 93 回延べ約 10,391 人の受講者を得た。特に 2012 年度第 2 回「陽明文庫講座」(2013 年 1 月)では、研究分担者の尾上陽介が、鹿ヶ谷事件(安元 3 年・1177 年)にて喜界ヶ島に流罪となった後白河院近臣・俊寛の自筆書状を陽明文庫所蔵『兵範記』紙背文書中から初めて発見したことを報告し、新聞で大きく取り上げられるなど、古典学の研究成果を一般市民の方にも広めることができた。更に「陽明文庫講座」の講演内容をもとにした講座録、田島公編『近衛家名宝からたどる宮廷文化史 陽明文庫が伝える千年のみやび』(笠間書院 2016 年)を刊行し、特に北啓太「禁裏文庫と近衛家 江戸・明治期の様相」で、近衛忠愷が献上した東山御文庫(東山の御倉)の図面を初めて公開した。

(8)古典学支援ツールとして、天応年間(781~782)までの人名を網羅する竹内理三・山田英雄・平野邦雄編『日本古代人名辞典』1~7(吉川弘文館 1958 年~1977 年。以下、旧版と略称)の増補改訂版の刊行のため、木簡等出土文字資料や新出の「正倉院文書」「正倉院宝物銘文」等記載に見える古代人名の大幅な新訂増補を進め、約 2 万 5 千項目の人名の初稿原稿を、出版予定の吉川弘文館編集部に入稿することが出来た。

また研究分担者の馬場基奈良文化財研究所都城発掘調査部主任研究員の指導・総括のもと、同研究所が調査した平城宮跡ほか都城及び他機関が調査した都城・官衙・集落・官道(道路)跡などで出土した木簡記載の人名データ約 15,500 件余り(名寄せなし)のうち、約 3 分の 2 の名寄せなど整理を行い、データ作成数は 4,355 件に達した。これにより、旧版の元データは 22,545 件であるので、新訂増補版全体としては約 3 万件の人名を収載する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 153 件/図書に含まれた個別論文含む)

「蓮華王院宝蔵の「大嘗会御襖行幸絵」」藤原 重雄、サントリー美術館編『絵巻マニア列伝』(六本木開館 10 周年記念展図録) pp.74-75、2017 年、査読無

「紀貫之自筆本『土左日記』の流転 蓮華王院宝蔵から足利將軍家へ」藤原 重雄、サントリー美術館編『絵巻マニア列伝』(六本木開館 10 周年記念展図録) pp.158-159、2017 年、査読無

「中世の絵目録いろいろ」藤原 重雄、サントリー美術館編『絵巻マニア列伝』(六本木開館 10 周年記念展図録) pp.234-236、2017 年、査読無

「天皇と貴族が形成した文庫の目録学的研究の成果 デジタル画像の収集・公開と文庫の形成・再興・伝来の解明」田島 公、『アジア歴史資料の編纂と研究資源化 第 5 回

東亜細亜 史料研究編纂機関 国際学会議 東京大学伊藤国際学術研究センター会議』 pp.1-15、2016 年、査読無

「尊経閣文庫所蔵『春除目抄』解説」田島 公、公益財団法人前田育徳会尊経閣文庫編『春除目抄・京官除目次第他』 尊経閣善本影印集成 第 50 冊(八木書店古書出版部) pp.1-53、2016 年

「文庫論」田島 公、大津透他編『岩波講座 日本歴史』22(岩波書店) pp.349-375、2016 年、査読無

「記事の筆録態度にみる記主の意識 - 記事を書くこと、書かないこと -」尾上 陽介、倉本 一宏 編『日記・古記録の世界』、pp.307-341、2015 年、査読無

「『御堂関白記』古写本の書写態度」名和 修、倉本 一宏 編『日記・古記録の世界』、pp.397-421、2015 年、査読無

「所在不明の真福寺所蔵「旧記目録」三巻」田島 公、『愛知県史のしおり』別編 文化財 4 典籍、pp.4-7、2015 年、査読無

「兵庫県立歴史博物館所蔵の「〔第七櫃絵目録〕」宝蔵絵の可能性」藤原 重雄、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』66、pp.16-19、2014 年、査読無

「宮内庁書陵部所蔵京都御所旧蔵本の由来 吹上御文庫本の検討 附宮内庁書陵部所蔵「吹上御文庫書籍目録写」翻刻」小倉 慈司、『国立歴史民俗博物館研究報』186 集、pp.83-207、2014 年、査読有

「京都御所東山御文庫収蔵「神護寺文書」短報」藤原 重雄、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』64、pp.18-21、2014 年、査読無

「『源氏物語』と仏教」三角 洋一、『仏教文学』第 38 号、pp.64-74、2013 年、査読有

「「高松宮家伝来禁裏本」の形成過程」小倉 慈司、『国立歴史民俗博物館研究報告』178、pp.353-404、2013 年、査読有

「延慶三年実遍書写本『覚禅鈔』管見」藤原 重雄、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』59、pp.1-14、2012 年、査読無

「三条西家旧蔵『除秘鈔』について〔本文篇〕・〔紙背文書篇〕」田島 公・末柄豊、『東京大学史料編纂所報』47 号、pp.141~142、2012 年

[学会発表](計 63 件)

尾上 陽介「日記に残された中世都市鎌倉」神奈川県博セミナー「文献から読み解く中世都市鎌倉」第 2 回(招待講演)、2017 年 2 月 11 日、宇徳ビル 8 階会議室(神奈川県横浜市)

田島 公「十巻本『伊呂波字類抄』の写本研究の進展と考古学」『校刊美術史料』寺院篇上巻「伊呂波字類抄抄」の問題点」奈良県立橿原考古学研究所 第 348 回研究集会、2017 年 1 月 8 日、奈良県立橿原考古学研究所(奈良県橿原市)

田島 公「天皇と貴族が形成した文庫の目

録学的研究の成果 デジタル画像の収集・公開と文庫の形成・再興・伝来の解明」アジア歴史資料の編纂と研究資源化第5回 東亜細亜史料研究編纂機関 国際学会議 東京大学伊藤国際学術研究センター会議、2016年11月8日、東京大学伊藤国際学術研究センター特別会議室（東京都文京区）

遠藤 基郎「史料編纂所閲覧室での東南院文書の高精細画像の提供」正倉院文書研究会第35回定期研究会、2016年10月29日、奈良女子大学（奈良県奈良市）

遠藤 基郎「実運用となった Hi-CAT Plus - 新しい発信方式の意義と課題」東京大学史料編纂所 [共同研究拠点と歴史情報] シンポジウム「史料情報の新たな発信」、2015年1月24日、東京大学史料編纂所（東京都文京区）

末柄 豊「織田信長と正親町天皇」九州史学会大会（招待講演）、2014年10月18日、九州大学（福岡県福岡市）

田島 公「古典籍の伝来・知識体系の継承の歴史的特質と古典研究の進展 - 撰録・院政期の史料を中心に -」読史会大会、2013年11月3日、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール（京都府京都市）

遠藤 基郎「東大寺文書研究の現在」EAJRS（日本資料専門家欧州協会）2013 Paris Conference、2013年9月18日、BULAC 図書館（フランス・パリ）

三角 洋一「仏教語・仏教故事に見る古注釈の展開」東方学会、第五十八回国際東方学会者会議シンポジウム「源氏学」という学問（招待講演）2013年5月24日、日本教育会館（東京都千代田区）

〔図書〕（計7件 / 全頁本科研の成果の図書のみ）

田島 公編『禁裏・公家文庫研究』第6輯（思文閣出版）2017年

田島 公編『日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充 天皇家・公家文庫を中心に 2012（平成24）年度～2016（平成28）年度科学研究費補助金 [基盤研究(S)] 課題番号 24222001] 研究成果報告書（最終報告）』（東京大学史料編纂所）2017年、全252頁

田島 公編『近衛家名宝からたどる宮廷文化史 陽明文庫が伝える千年のみやび』（笠間書院）2016年、全287頁

田島 公編『日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充 - 天皇家・公家文庫を中心に - 2012（平成24）年度～2014（平成26）年度研究成果報告書（中間報告）』（東京大学史料編纂所）2015年、全205頁

田島公編『禁裏・公家文庫研究』第5輯（思文閣出版）2015年、全482頁

田島公責任編集『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史』15 平安時代3（朝日新聞出版）2013年、全39頁

田島公編『日本、中国・朝鮮対外交流史年表（稿） 大宝元年～文治元年 〔増補改訂

版〕第1版第2刷』（田島公）2013年、全248頁

〔その他〕

ホームページ等

禁裏・公家文庫研究の窓

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-kuge-index.html>

木簡人名データベース

http://jinmei.nabunken.go.jp/mokkan_name/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田島 公 (TAJIMA, Isao)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：80292796

(2) 研究分担者

尾上 陽介 (ONOE, Yosuke)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：00242157

遠藤 基郎 (ENDO, Motoo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40251475

末柄 豊 (SUEGARA, Yutaka)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：70251478

（平成24年度のみ連携研究者、以後研究分担者）

吉川 真司 (YOSHIKAWA, Shinji)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：00212308

金田 章裕 (KINDA, Akihiro)

京都大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：60093233

馬場 基 (BABA, Hajime)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財

研究所・都城発掘調査部・主任研究員

研究者番号：70332195

本郷 真紹 (HONGO, Masatsugu)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：70202306

山本 聡美 (YAMAMOTO, Satomi)

共立女子大学・文芸学部・教授

研究者番号：00366999

（平成27年度より参画）

(3) 連携研究者

伴瀬 明美 (BANSE, Akemi)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：90292797

（平成26年度より参画）

藤原 重雄 (FUJIWARA, Shigeo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40313192

稲田 奈津子 (INADA, Natsuko)

東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：60376639
黒須 友里江 (KUROSU, Yurie)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20781438
(平成28年度より参画)
林 晃弘 (HAYASHI, Akihiro)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：10719272
(平成28年度より参画)
月本 雅幸 (TSUKIMOTO, Masayuki)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：60143137
(平成24年度のみ研究協力者、以後連携
研究者)
三角 洋一 (MISUMI, Yoichi)
東京大学・名誉教授
研究者番号：90036591
川尻 秋生 (KAWAJIRI, Akio)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：70250173
小倉 慈司 (OGURA, Shigeji)
国立歴史民俗博物館・研究部歴史研究系・
准教授
研究者番号：20581101
渡辺 晃宏 (WATANABE, Akihiro)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財
研究所・都城発掘調査部・史料研究室長
研究者番号：30212319
(平成24年度のみ連携研究者、以後研究
協力者)
桃崎 有一郎 (MOMOSAKI, Yuichiro)
高千穂大学・商学部・教授
研究者番号：80551150
(平成24～27年度)

(4)研究協力者

北 啓太 (KITA, Keita)
東京大学・史料編纂所・非常勤講師、元宮
内庁京都事務所・所長
吉岡 眞之 (YOSHIOKA, Masayuki)
国立歴史民俗博物館・名誉教授、東京大
学・史料編纂所・非常勤講師
研究者番号：90290858
山口 英男 (YAMAGUCHI, Hideo)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：40182456
金子 拓 (KANEKO, Hiraku)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：10302655
遠藤 珠紀 (ENDO, Tamaki)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：10431800
原 秀三郎 (HARA, Hidesaburo)
静岡大学・名誉教授
神尾 愛子 (KAMIO, Aiko)

西尾市岩瀬文庫・学芸員
名和 修 (NAWA, Osamu)
公益財団法人陽明文庫常務理事・文庫長
名和 知彦 (NAWA, Tomohiko)
公益財団法人陽明文庫・事務長
内海 春代 (UTSUMI, Haruyo)
関市立図書館・館長
飯田 武彦 (IIDA, Takehiko)
宮内庁・正倉院事務所・保存課調査室長